活動報告

第２回国大化学会同窓委員会報告

国大化学会執行役員　企画Ｇ　松本　正和（昭和 45 年応化卒）

今年の同窓委員会は，震災の影響で当初予定日から延期され，６月４日総会会場の横浜崎陽軒本店で，総会直前に開催する運びとなった．使用可能な時間が 100 分間となり，総会に食い込まないことを大前提にしながら，挨拶・報告そして全員参加の 30 分討議，更にその後の代表による発表と，まさに神業的な企画運営であったが，参加された諸氏の協力で予想以上の成果とともに，時間どおり大成功裏に終了することができた．

開催時点では年度別グループ別合せて，確定していた同窓委員は 141 名．うち多忙にもかかわらず 53 名の同窓委員が参加され，役員を加えて総勢 60 名を超える大集会となった．

別表に全同窓委員とそのうち同窓委員会に出席された方々を紹介した．

会は平井会長，米屋前会長の挨拶から始まり，OB でかつ同窓委員の東京理科大学の藤嶋昭学長から理科大同窓会関係のセレブなうらやましいお話があり，私からはこの１年間の同窓委員数の推移と，同窓委員の現状及び課題等をご報告した．その後会費納入促進へのご協力のお願いを経て，テーマ別に分かれての全員参加の討議会に移行した．

テーマ討論は，①所在不明者の掘起し　②会費納入率の向上　③国大化学会に望むことの３件を全グループで討議する共通テーマとし，A. 同窓委員とその連絡網の活用　B. 就職支援　C. 奨学金　D. 同窓会のあり方　E. 個人情報　F. 会誌のテーマ別に６つのグループに分かれて，意見交換をして頂いた．

各グループには参加役員に進行役，まとめ役をお願いした．

討議は会場内に適宜場所を設定し，各グループ共うるさいくらい活発な意見交換，白熱した議論で，所定の 30 分はあっという間に過ぎ，半ば強引に討議を終了し，各グループ１代表５分で概要を発表して頂いた．

発表内容の一部を下記に紹介するが，全体に短時間にもかかわらず，各グループそれぞれ中身の濃いご意見，議論が多かったことを報告する．

第２回目の，まだまだ手探りの同窓委員会であったが，もう少し時間があれば，そしてもう少し前準備をすれば，来年次以降は更に充実した委員会にできると確信をした 100 分間でもあった．

テーマ討論：発表要旨一部紹介

- 所在不明者は会員の 1/3 位．平成 2～18 年は研究室単位で追う以外にない．移動の連絡を必ず同窓委員に出すことの徹底が必要．
- グループで１人核ができれば，10 人と連絡が取れ，９割方が分かる．
- 名簿は CD 等へ簡略化できるのでは．財政健全化が全ての前提．
- 同窓会活動，寄付行為には表彰等の仕掛けが必要．宣伝も不可欠．
- 個人情報を事務局にも出さないで欲しいとの要望が同窓委員にくる．
- 所在不明者は，クラス会の組織率が良いので，その場で話題にすべき．
- 会費の集め方として，もっと柔軟に，纏め払い終身払い等を考えては．

国大化学会同窓委員一覧

A.　年度別

卒業年度	科別	同窓委員	参加	備考
昭和 12 年	応化	今村　久寿彦		
昭和 15 年	電化材化	新井　士郎	○	
昭和 16 年	電化材化	飛田　進	○	
昭和 17 年	応化	山崎　弘		
	電化材化	村松　四郎	○	
昭和 18 年	電化材化	西田　通弘	○	
昭和 19 年	応化	関根　文三	○	
昭和 20 年	応化	重松　高明	○	
昭和 22 年	応化	山口　香		
	電化材化	岡澤　長秋		
昭和 23 年	電化材化	小高　邦明	○	
	電化材化	小笠原　英昭		
昭和 24 年	電化材化	伊勢　秀夫		
	電化材化	大屋　忠		
昭和 25 年	応化　2 部	梶　政史		
	電化材化	並木　博	○	
昭和 26 年	応化	渡辺　一男	○	
	応化　2 部	小林　立身	○	
	電化材化	森川　三郎		
昭和 28 年	応化	和田　庄平	○	
	電化材化	沢崎　俊幸		
	電化材化	森　正樹		
昭和 29 年	応化	伊藤　幸雄	○	
昭和 30 年	応化	福田　和吉	○	
	電化材化	古尾谷　崇		
昭和 31 年	応化	横山　吉美	○	
	電化材化	中村　宏		
昭和 32 年	応化　2 部	徳竹　茂男	○	
	電化材化	渡部　一雄	○	
昭和 33 年	応化	沖山　聰明		
	応化　2 部	長田　穣	○	
	電化材化	滝川　哲朗		
	電化材化	吉原　明俊		

卒業年度	科別	同窓委員	参加	備考
昭和 34 年	応化	土田　宏		
	応化　2 部	土屋　隆夫	○	
	電化材化	白木　健一		
	電化材化	鳥居　英昭		
昭和 35 年	応化	富塚　功	○	
	応化　2 部	辻　秀徳	○	
	電化材化	政野　守雄		
昭和 36 年	応化	藤村　寛		
	応化　2 部	鈴木　志世		
	電化材化	鈴木　晴雄	○	
昭和 37 年	応化	杉山　正敏		
	応化　2 部	阿部　龍之		
	電化材化	藤林　徹	○	
昭和 38 年	応化	角川　民雄		
	応化　2 部	野木　一男	○	
	電化材化	小嶋　令史	○	
昭和 39 年	応化	鈴木　茂	○	
	電化材化	熊代　幸伸	○	役員
昭和 40 年	応化	福嶋　優	○	
	応化　2 部	関野　順		
	電化材化	宮野　靖彦		
昭和 41 年	応化	井上　誠一		
	応化　2 部	笹本　忠	○	
	電化材化	相澤　益男		
	電化材化	藤嶋　昭	○	
昭和 42 年	応化	高橋　克彦	○	
	応化　2 部	飯島　孝雄	○	
	電化材化	池田　浩隆	○	
	電化材化	佐藤　剛三	○	
昭和 43 年	応化	井上　彰則		
	応化　2 部	北島　惇夫		
	電化材化	堀　雅宏	○	役員
	電化材化	溝田　隆之		

卒業年度	科別	同窓委員	参加	備考
昭和 44 年	応化	山田　勝		
	応化　2 部	本間　昭弘	○	役員
	電化材化	柳町　惇夫	○	
昭和 45 年	応化	川嵜　健次		
	応化	松本　正和	○	役員
	応化　2 部	目黒　竹司	○	
	電化材化	石井　康一郎		
昭和 46 年	応化	山野　裕	○	
	応化　2 部	降屋　幹男	○	
昭和 47 年	応化	三浦　康明	○	
	電化材化	河合　秀樹		
昭和 48 年	応化	井原　元一郎		
	電化材化	稲垣　修一		
昭和 49 年	応化	蔵並　真一	○	
	電化材化	横山　幸男	○	役員
昭和 50 年	応化	中村　博	○	
	応化　2 部	末澤　裕子		役員
	電化材化	古田　乃武司		
昭和 51 年	応化	長瀬　安数		
	電化材化	唐石　俊之	○	役員
	電化材化	佐藤　登	○	
	電化材化	若林　学		
昭和 52 年	応化　2 部	横山　隆	○	
	電化材化	樋渡　有		
昭和 53 年	応化	藪　健一郎	○	
	電化材化	上野　則幸		
昭和 54 年	応化	本田　清		役員
	電化材化	堀江　浩文		

卒業年度	科別	同窓委員	参加	備考
昭和 55 年	電化材化	長瀬　正浩		
昭和 56 年	応化	關　金一	○	役員
	電化材化	藤井　義久		
昭和 57 年	応化	小林　昌志		
昭和 58 年	応化	池田　博		
昭和 59 年	応化	仲村　聡史		
	応化　2 部	坂本　欣也	○	
	電化材化	森下　芳伊		
昭和 60 年	応化	福田　守伸		
	応化　2 部	川口　武明		
	電化材化	市石　知史		
昭和 62 年	応化	荒木　政徳		
	応化　2 部	佐藤　聖一		
	電化材化	上田　和拓		
昭和 63 年	応化	川井　明美		
	応化　2 部	牛込　俊裕	○	
	電化材化	会田　克昭		
平成 21 年	物工	山本　慎太郎		
	物工	関　康一郎	○	
平成 22 年	物工	関　知也	○	
	物工	御園　直樹		
平成 23 年	物工	江川　良		
	物工	本田　佳之		
学部 4	物工	大野　謙介		学生役員
	物工	内藤　穂波	○	学生役員
	物工	渡邉　弘	○	学生役員

B.　研究室別・グループ別

研究室等	科別	卒業年度	同窓委員	参加	備考
小林研	電材	昭和 43 年	堀　雅宏		
仁木研	電化	昭和 45 年	鈴木　恵一朗	○	役員
ギタークラブ					
栗田進研	応化	昭和 60 年	関谷　隆夫		
宮澤研	物工	平成 02 年	坂本　泰一	○	役員
米屋・目黒・多々見研	物工	平成 03 年	松風　紀之	○	役員
米屋・目黒・多々見研	物工	平成 15 年	平塚　大祐		
渡辺・獨古研	物工	平成 12 年	上木　岳士		
渡辺・獨古研	物工	平成 13 年	関　志朗		
渡辺・獨古研	物工	平成 21 年	関　康一郎		
中山・上田研	応化	昭和 54 年	小尾　直紀		
中山・上田研	応化	昭和 60 年	福田　守伸		
中山・上田研	物工	平成 22 年	西村　俊秀		
佐藤・井上・本田研	物工	平成 17 年	藤本　洋平		
浅見研	物工	平成 07 年	篠田　匡暢	○	
佐藤浩太研	物工	平成 20 年	神初　正貴		
内藤研	物工	平成 14 年	川村　出		役員
窪田研	物工	教員	窪田　好浩	○	役員
關研	物工	平成 17 年	山口　公弘		
湊研	物工	大学院 2 年生	榛葉　拓也		
横山泰研	物工	平成 21 年	山本　慎太郎		

就職支援報告

国大化学会　企画 G　金子　守正（昭和 46 年応化卒）

日本経済の高度成長期に理工系の諸先輩が最先端の研究開発に携わり，多くの社会貢献を果たされ，または途上で活躍していると思います．現状の経済活動の活性を取り戻す力は，金融でも財政でもなく，創造的な発想に培われた若い理工系のエネルギーにあるものと信じております．しかし，日本全体の就職環境の低迷から，国大化学系の来春新卒就職内定率は 7 月末時点で，7 割前後にとどまり，未だ 30 名程の学生は就職活動を継続している状況にあります．

昨年 2010 年 8 月より OB の e-mail アドレスに基づき，就職相談のボランティア協力の要請をご案内し，現在までに，29 機関に所属する，企業/企業 OB/弁理士/大学教員など 42 名の方から e-mail 交信での相談ボランティアの許諾を頂きました．この中から，就職先の案内ができたり，面接の事前相談をしたりする事例が 2 件報告されております．

若い有能な人材が最大限の能力を発揮できる職場を探すお手伝いをすることで，豊かな少子高齢化社会を築くことでは，より多くの OB 方々が支援活動へ参画することを期待しているところです．

現在の取り組みとしては以下のとおりです．

1）　企業/OB データベースの拡充：様々な進路にアドバイスの対応ができるように，支援して頂ける OB の目標数を 100 名に広げ，学生が OB へアクセスしやすいようなデータベースの整備を予定

しています．

2）　大学内キャリアサポート室の相談員に参加：現在，富丘会のボランティアが学生の就職支援への個別相談を行っています．従来学校推薦で就職先を決める割合が多かった理工系の学生においても，最近利用が増加してきており，専門分野に即した相談員の参加要請がきております．既にこの5, 6 月に試行期間を経て，10 月からは個別相談への新規参加を予定しております．

3）「OB と語る会」での就職準備講座の導入：国大化学会では学部 3 年，修士 1 年を対象に，年 1 回の OB の講演会を行い，職業人としての先輩諸氏の経験をカリキュラムの中で学習する機会を設けております．今後このような機会を利用して，長期的に学生の就職におけるポテンシャルを高める OB 講師による講座の導入を検討しています．

4）　大学のブランド力を高める活動：就職支援は OB/学生の世代間交流であります．それは，研究室，サークル，各種同窓会イベントでの活動を活発にすることにもつながります．文明開化の横浜の地において，自由で，恵まれた教育・研究環境で養成された人材が，社会的により多大な貢献ができる機会へ導く仕組みをつくることは大学の意義として大きいものと考えます．

同窓会の活動から社会を動かすという思いで，就職支援で豊かな社会を夢みることを考えていきたいと思います．就職相談ボランティアにご賛同頂ける方はご一報のほどお願い申し上げます．

e-mail: morkaneko2006@hotmail.co.jp

今村久寿彦さんが母校に絵画を寄贈

同窓会会員の今村久寿彦さん（昭和 12 年応化卒）は三菱ガス化学勤務の現役時代から絵画作品の制作を始められ，砂絵から入り，アクリル画を経て，現在は油絵を主体とした創作活動をお元気に続けておられます．先頃制作活動 40 年を記念して東京・日本橋で個展を催されたのを機会に，代表的な作品の中から絵画 1 点を母校に寄贈されました．作品の題は「夕照」（M60 サイズのアクリル画）で，夕焼けに照らされたヨットハーバーを精細なタッチで描いたもので，静けさの中に温かさが感じられる作品です．この作品は母校の教育文化ホールの大集会室内に飾られておりますので，機会がありましたら是非ご鑑賞下さい．

（工学部同窓会連合代表　井上誠一）

「あなたの会費が国大化学会と大学・学生を支えてくれています」会費納入の現状と今後の会費納入促進対策について（お願い）

会費納入促進Ｇ　熊代　幸伸（昭和 39 年電化卒）
坂本　泰一（平成 2 年物質工卒）
本間　昭弘（昭和 44 年 2 部応化卒）

はじめに

昨今，同窓会の役割が，従来の卒業生の懇親会的位置づけから，大きく変化しています．すなわち，法人としての大学への参加協力，学生への具体的支援の比重が大きくなってきています．

私たち卒業生は，これらの変化を敏感に受け止めての活動が必要です．そのために，会費納入状況は，十分ではありません．皆様に，その実情を知っていただくとともに，今後の同窓会をより強固にしていこうではありませんか．対策へのご協力をお願いいたします．

（現状）

①連絡先不明者（会誌を送付した時，住所不明で戻る）が多い．

平成 23 年 3 月末の調査で，2,553 人の会員が連絡先不明です．22 年 3 月末と比較して，173 名連絡不明者が減少し，同窓委員の協力に感謝します．

②会費納入の低さ

平成 22 年度の会費納入者数は，3 月末現在で 1,765 人です．平成 21 年度 3 月末の 1,912 人と比べて 147 人の減少です．

これは連絡のとれている会員（会誌送付が可能な会員 4,222 人）の 41.8％です．

③同窓会の変化への理解不足

「はじめに」で述べたように，国大化学会の役割が大きく変化してきていることの認識不足があります．

（対策）

①連絡先不明者が多い．

連絡先の調査のために新設された同窓委員の皆様にお願いしてクラスまたは研究室の不明者の住所を調べていただくことを実行中です．（すでに，平成 22 年度に 2 回目実施済み）

抜本的には，卒業時に連絡先（親元を含む）を登録していただき，国大化学会事務局で保存する．

②会費納入の低さ

会費の振込みは，郵貯銀行が中心になっていますが，銀行（横浜）振込み口座の方法も紹介しています．現状会員から納入された会費と寄付金の 10％位が学生支援等に使われています．

③同窓会の役割変化への理解不足

国大化学会機関紙や E メール（ホームページ，メルマガ）を通して，大学諸活動と国大化学会の協力例の紹介と学生支援状況（教育研究支援基金の支援報告，技術支援，就職活動支援等）を行って，国大化学会の役割変化を正しく理解していただく．

タイトルに書きましたように**「あなたの会費が国大化学会と大学・学生を支えてくれています」**会を発展させるための基本です．

ご理解いただき会費納入をお願いいたします．

（文責　本間）

名簿発行について

前会誌・名簿グループリーダー　鈴木恵一朗

本年 3 月に会員名簿（平成 22 年度）を会員の皆様にお届けしました．前回の国大化学会が発足して初めての名簿発行が平成 18 年度でしたので 4 年ぶりの発行となりました．名簿の発行は会則に「会員名簿は原則として 3 年に 1 回発行する」となっていますので，予定どおりであれば平成 21 年度に発行の予定でした．しかし，今回の場合，2005 年 4 月に全面施行された個人情報保護法により，個人情報の取り扱いにつき，より注意が必要となり，名簿の発行，内容について色々な意見がありました．この

ため，会として発行を急がず十分議論して結論を出そうということになり，時間をかけて検討し，本年の発行に至りました．

本稿では，今回の名簿発行に至る議論の経緯を皆様に簡単にご説明し，さらに今後の名簿発行についての意見についても触れることにしたいと思います．

〈経緯〉

平成20年12月　役員会の会誌・名簿グループで22年春発行を目指して検討を開始．

21年3月　役員会にて，名簿の内容については時間をかけて検討し，発行時期を遅らせることも考えることとなった．

21年5月　名簿掲載内容につき，会誌・名簿グループで案作成．5月の役員リーダー会議で討議．

名簿発行の目的を同窓生同士がコンタクトを取るためというより，どんな人がいて，今どこにいるのかの情報を得るためと考えると，以下の内容の掲載でよいのではないか．

氏名，卒業年，研究室，現在の勤務先，勤務地住所，住所（住所は郵便番号でわかる範囲，番地なし）とし，会員が同窓会事務所に問い合わせれば，目的に特に問題がない限り住所番地，電話を教える．

＊　名簿発行の目的を同窓生同士がコンタクトを取るためというより，どんな人がいて，今どこにいるのかの情報を得るためと考えると，以下の内容の掲載でよいのではないか．

＊　氏名，卒業年，研究室，現在の勤務先，勤務地住所，住所（住所は郵便番号でわかる範囲，番地なし）とし，会員が同窓会事務所に問い合わせれば，目的に特に問題がない限り住所番地，電話を教える．

21年7月　役員会にて名簿についてのアンケート調査（役員対象）

21年7月　総会にてアンケート調査　主な結果は以下（会誌6号17ページ参照）．役員会アンケート結果もほぼ同様の傾向．

1. どのような名簿が必要か？　従来どおりの名簿37名，従来より簡略化した名簿15名
2. 名簿は何のために必要でしょうか？　同窓生の動向，所属を知るため33名，
   同窓生同士が連絡を取り合うため21名，
   具体的な必要性は感じたことがないが，同窓会として必要9名
3. 名簿の住所は番地なし，電話番号なしでもよいか？　よい28名，よくない41名
4. 名簿は希望者に有料でもよいか？　よい46名，よくない5名

21年10月　役員会　会誌・名簿Gで最終案をまとめることとなった．

21年12月　会誌・名簿グループで再度，案作成．

会員の年代によるニーズの違いに応えるものとするため，内容を二つに分ける．

＊　旧応化会および旧電化・材化会　ほぼ従来の名簿通りの内容．

＊　旧国大化学会　勤務先住所および自宅住所については郵便番号でわかるところまで，電話は載せない．

22年1月　リーダー会議で討議の結果，内容に差を付けるのは止め，以下とすることが決まった．

＊　氏名，卒業年，研究室，現在の勤務先，勤務地住所，自宅住所，自宅電話
（その後の経緯で勤務先住所なし，元勤務先も希望により記載することとなった）

＊　無償とする．配付対象者　直近3年以内に1回以上会費を納入した会員および学部4年生，M1，M2学生

22年3月　会員に名簿記載事項の確認のお願い発送

23年3月　発行

以上の経緯よりわかりますように内容の決定までに多くの時間をかけ熱心に議論を行いました．結果としては，多少の簡略化はあったものの，前回名簿とほぼ同内容のものとなりましたが．名簿の発行は3年おきとしているので，次の発行は平成26年3月となります．それまでに今までの議論を土台とし，名簿の目的，必要性，個人情報保護等の点からさらに議論を行い，結論を出していく必要があります．学会を含め色々な団体で印刷版の名簿を発行しないことにしたところも増えつつあり，他団体の状況等にも注意を払って考えていく必要があるでしょう．

今後の参考までに，今後可能性のある案を記しておきます．

1. 会員名簿を発行しない．事務局の名簿は更新していき，会員よりの要請により必要事項を開示する．
2. 印刷版は出さないが Web 版を作成する．会員のみがパスワードを入れて閲覧できるようにする（パスワードは毎年変更するなど）．
3. 印刷版は出すが，個人情報保護（および費用削減）のために内容を大幅に簡略にしたものとする．

1.と 2.は共に印刷・発送費用（今回の名簿の場合で約 210 万円）がなくなるため，会計上有利となり，その分を学生支援等他に回せることにもなると思われます．2.の Web 版については，今後ますます色々な面で Web 利用が進んでいく傾向にマッチすると思われます，情報が他に漏れることをどのように防げるかが課題と思われます．3.については，今回大いに議論したところでもありますが，年代によっても異なるニーズに応えるのは難しく，また，あまり簡略化すると名簿としての意味が薄れてしまうことも問題です．

名簿に関する今後の皆様の議論を期待します．

「国大化学会メルマガ」ご登録のお願い

国大化学会メルマガ編集委員

国大化学会および関連する学科・学部や横浜国大の最新の情報を早く皆さんに電子メールでお届けするためにメールマガジン**【国大化学会メルマガ】**を現在配信中です．

「国大化学会ホームページ」や皆様にお届けしている発行間隔が長い「国大化学会会誌」と併用して**【国大化学会メルマガ】**では“旬な情報”をいち早くお届けいたします．

主な掲載内容

- 国大化学会
  - 総会（開催予告・予定議事・会場案内）
  - 役員会　開催予告・予定議事
  - 事務局からのお知らせ
  - 会費納入など各種お願い
  - 各ブループ委員会の活動紹介報告
  - 募集　会誌原稿・役員募集・グループ委員募集
  - ホームページや会誌との連携
- 大学関連
  - 学生の動向（コース新配属など）
  - 歓迎会
  - OB と語る会
  - 教員の動向（新任・退職など）
  - 行事（入学式・卒業式など）
  - 必要に応じて大学 HP の URL 紹介

送信方法

- メルマガ本文テキストを TEXT 形式でメール送信
- 事務局から Bcc: 一括送信
  （受信者は自分宛のみに発信されたように見え，他の方の送信先は分からない）
- 当面は【横浜国立大学メールマガジン】も同時配信

発行月日

- 月 1 回ペース　and/or　必要時　日は固定しない　行事の前後

登録方法

- 事務局メールアドレス yokochem@ynu.ac.jp に**「国大化学会メルマガ希望」**と本文もしくは件名に記入してお送りください．送信元のメールアドレスをメルマガ配信先として登録させていただきます．

是非，ご登録をよろしくお願いいたします!!

教育支援報告（平成 22 年度）

教育研究支援基金運用 G　榊原　和久（昭和 50 年応化卒）

諸先輩の皆様が長きにわたって積み立てて下さった基金が，国大化学会に属する現役の学生さん達の日常の研究活動に有効に活用されるよう，教育研究支援基金運用グループは頑張っていますが，この活動も，学生さん達にも徐々に浸透して認識され，研究室に所属して学部での卒業論文，そして大学院での修士および博士論文研究に日夜頑張っている多くの学生がこの基金の恩恵にあずかるようになっています．

平成 22 年度（2010）は，学生と教員合わせて 55 名（4 名は教員）がこの基金を活用して，学会発表のための参加費の一部に使わせていただきました．総額は 316,000 円です．

皆様もご承知のとおり，昨今の厳しい経済状況を反映して，文部科学省からの運営交付金は年々少なくなり，研究室での教育研究活動に活用できる金額は減少しています．ですから，国大化学会からの学会参加費の補助が受けられるのは，学生にとって真に有り難い制度であり，この良い循環がさらに今後も進展していくように，教育研究支援基金運用グループとして知恵を出していこうと思っています．

学生への教育支援を通して，国大化学会への帰属意識が高められるように，今年度の学会参加費の補助のガイドラインとして，

(1) 同窓会費の納入をした学生に対し，1 人，1 万円を上限として支援申請ができる．
(2) 学会参加費に対する同窓会からの支援活動があることの周知を行い，できるだけ多くの国大化学会会員が応募できるようにする．
(3) 教員への支援は実施しない．

を決めました．

学会参加費への補助のほかには，横浜国大と提携関係を結んでいるアジアからの交換留学生（Khishigjargal Tegshjargal 君（上田研究室）：モンゴル国立大学化学部）に対し，航空券購入に対する補助として 77,000 円を支給させて頂きました．少子化の社会情勢の中，優秀な海外からの学生を積極的に横浜国立大学に呼び寄せ，研究活動を活性化することは，今後の大学の発展に大いに貢献するものと考えられます．しかしながら，限りある財源の中から，1 人の学生に対して比較的大きな金銭的な補助を差し伸べることに対しての問題点を指摘される方もいらして，今後は，1 人当たりの補助額の最大を 50,000 円として，当面運用していこうと考えています．

最後に，これは毎年の定常的な経費ですが，国大化学会の会員になってくれる，化学コースに配属された新 2 年生に対する懇親会賛助金として 80,500 円を支出いたしました．学生と教員が親しく会話の場を本学への入学以来，初めて持つことができる機会ですので，今後もこの懇親会を上手く活用して，国大化学会の学生さんへの周知を図っていきたいと思います．同窓会の役員の方も，時間が許せば，ご参加いただければと思います．

これからも，同窓会会員の方の暖かいご支援を，現役の学生さんにお寄せ下さいますようお願いいたします．

理工学部新入生を迎えて

横山幸男　（昭和 49 年電化卒）

平成 23 年は横浜国立大学工学部にとって大きな節目を迎えた年となりました．すでにご承知のとおり，長い歴史と伝統のある本学工学部が再編改組され，本年度より 4 学科入学定員 745 名の理工学部として発足しました．私たちの学科も，物質工学科を発展的に解消し，新しく「化学・生命系学科」としてスタートしました．平成 23 年度入学学生募集は，推薦，前期日程試験と順調に推移し，3 月 12 日の後期日程試験も準備万端受験生の受け入れを完了していたところですが，その前日に起きた東日本大震災により，ついに試験を実施することはありませんでした．しかし，この 4 月には新学科の第一期生として，195 名の新入生を迎えることができ，教職員関係者ともども大変喜んでいるところです．写真

は，学科新入生オリエンテーションの一こまです．

旧「化学コース」は教育人間科学部から新たに教員を招き学生定員を拡大して，「化学教育プログラム」通称「化学 EP」とよばれる組織となりました．今までとの大きな違いは，学生の専門性を考慮して，従来の「工学士」に加えて「理学士」のどちらか一方の学位を授与できることになったことでしょう．このことにより従来にも増して，優秀かつ多様な学生を集めることができ，学科の将来は大きく発展することが期待できます．